

へら鮒釣師の戯言

宮内敏郎

へら鮒釣りは、気温-5℃以下で、しかも雪が深々と降るなかで行なうと無上のものとなる。出来ればエサがシャーベット状に凍るくらいで、鼻水が糸を引いたように出るとなおいい。パラソルを使って雪を避けるのはバカ者で、こんなときは肩に積もらせるに限る。ましてや、鼻水をティッシュでかむなどは不粋者のやることで、袖でゆっくりと拭き、浮子から一時でも目を離さないのが肝心である。

肩は決して張ってはいけない。出来るだけ丸めた猫背で座り、水面に雪の落ちる音を聞く姿勢とする。また、仕事や家族をこの場に持ち込むのは大変失礼なことで、頭の片隅なりともあってはいけない。こんな雑念は、へら鮒様がすぐに察知して相手にもしてくれない。恋人との寛ぎは一切を捨象して向かい合うことにある。

竿は13尺の胴調子で、竿いっばいの底釣りに徹する。道糸は0.6号で、ハリス0.4号、段差5cm、ハリは上バリ4号、下バリ2号とし、上バリを2cm這わせる。棚取りは少なくとも直径30cm範囲を念入りに行ない、細身浮子の目盛りが3節程度沈むようにオモリを調整する。そうすれば、エサ付き目盛りが5～6節目となる。

エサは、バラケエサと食わせエサの2種類用意する。バラケエサは集魚性の物で上バりに、食わせエサは下バりに付ける。

深呼吸して第一投目のエサ打ちとする。約10秒で浮子が立ち、ゆっくりと6節目でなじむ。5秒もするとバラケエサが溶け出し、波紋の無い雪落ち水面から浮子がじわじわ上がり3節目で静止、空合わせで竿をあげる。

魚信（アタリ）があるまでは、何投でもただ黙々とこれを繰り返す。肩に降った雪が溶けるのを忘れて積もりはじめ、エサがシャーベット状になり始めるころ、浮子のなじむ時間がやや遅くなり、なじんだ後の戻りが早くなる。へら鮒が集まりだした兆候である。3節目まで浮子が戻った時点で小さく誘いをかけると、直後に、5mm位のチクッとした最初のアタリがでる。しかし、ここで慌てて合わせてはいけない。ニタッと顔を緩めて2呼吸して釣らずに空合わせする余裕を持つ。かじかんだ手は擦り合わせて解しその温もりでシャーベット状になったエサを溶かしてハリ付けする。次の1投もやはり同じ浮子の動きをみせ、エサ落ち目盛り付近でチクッと小さいながらも力強いアタリ。今度は、間髪を入れずに鋭

く合わせる。竿を大きく弧を描き、時として穂先が水面に潜る。両手で竿を持つのは邪道で、片手を真っすぐに伸ばしてゆっくりと片手万歳の形へと移行する。これは、へら鮒に敬意を払いその力の程を十分発揮させるに必要な作法である。

真上に手がくるとやがて、魚体が現れ空気をプカプカ吸うようになる。こうなると、へら鮒はいやに素直になり竿の力に身を任せ玉網へ納まる。対面は、做る事無く微笑むだけでよく、決して触れてはいけない。微笑みながら魚体を確かめ目を見て、ハリを摘み裏返す。カエシが付いていないためハリは容易に外れ解放する事ができる。ハリから解放されたへら鮒は玉網のなかで2～3回踊り巢恋しと訴える。これに応じて玉網をゆっくりに沈め「またナ」といってリリースする。

この軽い別れを12～13回繰り返すと寒さがいやに気になり、膝の痛さを感じるようになる。どんよりとした空から純白の粉が舞い落ちるを仰ぎ、一息吐いて納竿とする。

芯まで冷え込んだ体は、一本の缶コーヒーと車の暖房で家に着くまではすっかり暖まり、眠気が襲う。3人の娘とちょっと古くなった女房のたわいもない会話を無口で流し、吸い込まれるように夕食まで心地よい一眠り……。

末娘の「お父さんご飯ですよ」で目を覚まし、ハマチの刺身に箸をやる。コップに梅干しを入れ丹念に身を漬し、焼酎を中程まで入れ、これにお湯をなみなみ注いでこ

ぼれないようにゆっくりと掻き混ぜる。一口目を餡色したファイターの尺2寸のへら鮒に敬意を表し、次に、上品でスマートなへら鮒へ想いを走らせ、13口目の最後を雪空に感謝して飲み干す。

妙に込上げてくる満足感を古女房にも分け与えたいが、適切な言葉が浮かばず、話しても解るまいと胸にしまい込み微酔いと遊び、無上感を楽しましい一日であったと言ひ聞かせ深い眠りにつく。

翌日は、頭が空っぽ状態の後遺症、午前中は原稿用紙に向かっても一向に筆が進まない。こんな状態を見てよく親友であった天間則光氏は「昨日行ったね」と云いながら近付いてきて、すかさず「寒い中で釣った魚を持ち帰るでもなく、ましてや食べない魚を釣るのは釣りでないじゃ」と青森訛りを浴びせてきたものである。

天間氏とは15年間以上同じ職場でかけがえの無い青春をともした。彼は、土質部門のトップとして若手の技術指導のみならず、東北地質調査業協会の技術委員や広報委員として永きに亘り活躍、また、土質工学会においても積極的な活動を行ない、その貢献の大きさを誰もが認めていました。献身的に地元業界発展の手助けになればと努力し続けている者を、神が何故こんなにも早く召し上げたか、凡人には知る由もありませんが、あなたの業績を継承し発展させる事を誓い合掌します。

(綑日本総合地質)